

A-118 福山市における栄養摂取状況等に関する意識と実態 (第9報)

—価値志向のタイプ別による分析—

福山市立女短 鈴木雅子 奥山清美 加納三千子 津川 淳  
三谷璋子 倉田美恵、土屋茂江

目的 社会意識における価値志向が食生活、生活の安全性、健康等に対して、どのような関連があるかを明らかにするため検討を加えた。

方法 価値志向を④権威主義的従順型、③権威主義的批判型、②革新的批判型、①革新的従順型の4タイプに分類し分析を行った。

結果 1) 生活上の生き甲斐においては、家族の健康がもっとも多く、特に③④タイプに多かった。2) 食生活における情報への関心及び実態については、全体的に関心度は高いが、実態は低かった。関心度と実態との差が少ないのは、③タイプであり、食品公害に対しても全体的に強い不安をもっていた。

3) 生活の安全性に関する認識は、全体的に高く、特に③タイプに顕著にみられた。実態においては③タイプが高く④タイプが低かった。

4) 健康状態における全身的症状は、③④タイプに有訴率が高かった。

5) 生活基盤の実態において、タイプ別に差がみられなかったものは、年齢、収入、家族形態、持家状況であり、差がみられたものは、職業(ブルーカラー)、学歴(中卒)、主婦の就労状況(パート)であった。